

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区名	港区
学校名	大阪市立市岡小学校
学校長名	中谷 和博

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立市岡小学校では、第6学年 80名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

【国語科】

- 平均正答率は、対全国平均0.98でした。
 - ・「話す・聞く」、「書く」は全国平均を上回りました。
 - ・その一方で、「読む」と「言葉の特徴」は全国平均を下回りました。

【算数科】

- 平均正答率は、対全国平均1.00でした。
 - ・「数と計算」の領域は、全国平均を上回りました。
 - ・その一方で、「データの活用」領域は全国平均を下回りました。

【理科】

- 全国平均よりも少し下回りましたが、大阪市平均よりも上回りました。
 - ・「地球を柱とする領域」の正答率が全国平均・大阪市平均を下回りました。

【児童質問紙】

- ICTの活用など、今後の本校の学習のあり方を変えていく必要があります。
- 家庭学習のあり方を問い直す必要があります。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

- 従来よりの課題であった「漢字」について、文の中で正しく使うということに関し全国平均と比べて10ポイント以上の開きがあります。
- 登場人物の相互関係について、描写をもとにしてとらえることや、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとにとらえること、表現の効果を考えることに課題があります。

【算数】

- 「数と計算」・「図形」・「測定」・「変化と関係」・「データの活用」とすべての領域において、課題が見られます。
- 特に、目的に応じて使用すべき資料を選びだし、そこから必要な情報を読みとることに、課題が大きいと感じられます。
- 変化と関係の領域に関しての課題が大きいと思われます。

【理科】

- 日光の位置を確かめる実験の方法を問う問題や、天気と気温の変化に関して問う問題、空気中に含まれる水と水蒸気の関係性を問う問題など「地球」を柱とする領域について全国平均だけでなく、大阪府や大阪市平均よりも低くなりました。
- 「知識・技能」を問う問題よりも、「思考・判断・表現」を問う問題の正答率の方が、大阪市・府の平均よりも低くなりました。

質問紙調査より

- 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均と比べても高くなりました。ただ、「当てはまる」と答えた児童の割合は大阪市・大阪府・全国平均よりも5ポイント程度低くなっています。▪
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対して、肯定的に回答する児童は、大阪市・大阪府・全国平均とあまり変わりませんでした。しかし、その中で「当てはまる」と回答する児童の割合は、大阪市・大阪府・全国平均よりも15ポイント以上低く、全校をあげて児童の努力やがんばりを称賛するようにしていく必要があると考えます。▪
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対し、肯定的に回答している児童の割合が、大阪市平均よりも約7ポイント、大阪府平均よりも約8ポイント、全国平均より約11ポイント低く、自分の意見に対するこだわりの大きさがみられました。▪
- Q20～23の結果から、家庭学習や読書についてみると、平日及び土曜・日曜に1日に2時間以上学習している児童の割合は、大阪市・大阪府・全国平均と大きく変わりはありませんが、平日で30分未満や全くしていない、土曜・日曜で1時間未満や全くしていない児童の割合が大変高く、家庭で学習している児童としていない児童に、はっきり分かれています。▪
- 地域の行事への参加意欲や社会に対しての参画意識は低くなっています。「コロナ」の影響は否めません。
- 学習中のICT機器の活用については、大阪市平均とはあまり変わりませんが、全国平均よりもかなり低くなっています。▪
- 本校における5年生までの授業において、次のような点が課題として挙げられます。▪
 - ・ 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと▪
 - ・ 各教科で学んだことを生かして、自分の考えをまとめること▪
 - ・ 自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出すこと▪
- 総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて、情報を集め整理して調べたことを発表するという活動が、あまり行えていません。▪
- 教科で学習したことを実際の生活の中で生かしていこうとする意識の醸成が、あまり行えていませんでした。

今後の取組(アクションプラン)

- 本や新聞を読む機会を増やします。・
- また、自分から進んで考えをまとめたり、新しい考えを作ったりする探求学習を国語科はもとより、すべての教科等で行っていきます。そして、「教える授業」から一人一人が「調べる」「見つける」「話し合う」「発言・発表する」授業へと、変革していきます。・
- 授業づくりにおいて、児童の実態を各学級の担任が十分に把握して、学習のつまずきの要因を検討し、授業のユニバーサルデザイン化を進めて、より多くの児童が、わかる楽しさや、考える楽しさ、表現する楽しさを感じながら、知識理解を深めるとともに、思考力・判断力・表現力を高めていくようにします。
- 「なぜ」「どうして」「どうすればよいのか」を教員の支援のもとで、児童が見つけて考え、互いの考えを出し合いながら進めていくような授業にしていきます。
- 資料を活用することや、データを読み取ることに課題があるので、各教科の学習で、表やグラフから特徴や傾向をとらえたり、考察したりしたことを、表のどの部分から、あるいはグラフのどの部分からそのように考えたのかを、他の人にもわかるように伝えることができるようにします。その際、部分と部分や、複数のグラフを比べ、同じところや似ているところ、少し違うところや大きく違っているところなどを見だし、表現することができるようにします。
- 調べる活動や表現する活動にICTをさらに活用していきます。そのために、教員がICTを、どのように授業で活用していけばよいのか、さらに研修して、現在よりも高頻度かつ効果的に使用していきます。・
- 学習のさまざまな場面で、児童が意見や考えを出し合って交流し、思考の過程を充実させ、知識を深めたり技能を高めたりすることができるようにします。・
- 読解力の育成に努めます。国語科では、文章全体の構成を考え、内容の中心となる事項を把握することや、目的に応じて文章や図表などの資料とを結びつけて、必要な情報を見つめることを重視します。
- 算数科では、基本的な計算をドリル形式で続けていくことは今後も続けていきますが、それに終始することなく、問題を解くプロセスを重視していくような授業を行います。
- 理科では、身近な事象から児童が疑問を見つけ出し、その解決に向けた実験・観察の方法や留意点を、学習資料をもとに児童が主体的に考えていくような授業を行っていきます。また、実験や観察を通して得られた結果を、問題の視点や結果から言えることの視点で分析して解釈し、自分の考えとしてもつことができるようにします。・
- 自己肯定感は、学習に対する意欲と高い学習効果を生みます。今後も児童一人一人の自己肯定感を高めていくため、教員は児童を見つめ、その努力や頑張りを認め、積極的に称賛していきます。・
- すべての家庭で家庭学習が十分に行うことができるように、「家庭学習アンケート」を早急に実施し、それをもとにして「家庭学習力アップ大作戦」に取り組みます。